

自然エネルギー開発と海の未来都市建設に

本年から5カ年で可能性のための事前調査を開始

《21世紀は海洋の時代》といわれる今日、海の持つ自然エネルギーを最大限に活用することを目的に、科学技術庁が進める「海洋構造物による海洋空間の有効利用調査」が、全国初の調査地として、大町の黄金岬沖と決まりました。

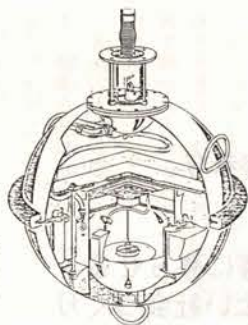
自然エネルギーの基地をめざし風力発電などに取り組みを進めてきた本市にとって、さらに波力によるエネルギー開発等を進めるとともに洋上に人工島をつくり、未来都市建設のモデルとするものでその調査結果が待たれることとなります。

調査の期間は、今月始めから、昭和61年の5年間にわたって行なわれますが、世界3大波高を誇る本市に、また新しい観光要素を持った施設が設置されることになりました。

海洋空間等の有効利用に関する総合研究のための事前調査として行なわれるもので、調査の期間は57年から61年の5カ年間にわたって実施され、調査のための事前調査が、本年11月から行なわれ、明年からは本格調査が始まります。

さらに、この調査のための候補地には全国から220市町村が名乗りを上げていたものですが、それらの市町村の中から全国で一カ所、留萌市黄金岬沖500mで実施されること、さる10月3日決定されたものです。

調査の事前研究として、黄金岬沖周辺の自然条件や水産資源の既往性のとりまとめ、黄金岬に波高計を設置、冬期間の波浪観測を行う、水産資源及び観光資源の価値を高めるためには、どういった海洋構造物がよいか、現地実験が可能になった場合、山形県鶴岡市由良沖で実験された波力発電装置で、



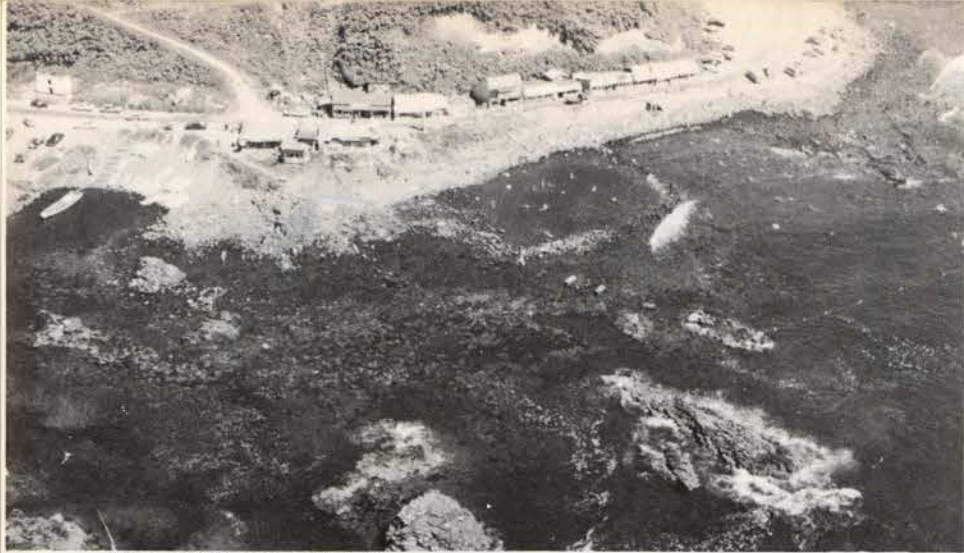
使用されるブイ式波高計

海明に設置されていたコンピュータ内臓のブイ式波高計を使用できるか等が、事前の調査として実施されます。

この調査はまた、単に波力による発電調査のみではなく、これらの条件を十分に活用するために、海洋構造物として「沖合人工島」の建設にまで、夢が広がることとなります。

この「沖合人工島」では、波力発電を始め、海洋開発の観点から沖合洋上に産業、流通、水産の各基地をはじめ、レジャー・センターなどの施設を建設するもので、海洋科学技術センターなどが研究開発を進めているものです。

調査基地となる黄金岬は、日本でも有数の波高を誇る、年平均10・6m、年間風速は約14・8m/sというところで、この調査目的に必要な条件が具備されている地域として、その効果が今から期待されており、さらには観光資源の一環として、その完成が待たれます。



調査が開始される黄金岬

我が国初の沖合人工島が誕生へ

この調査は、四面を海に囲まれた日本が、海流や潮流、波浪等の条件が厳しい沿岸海域を見ても十分に活用されていない」ということから、海洋資源全般について利用研究、開発を進める科学技術庁が行うもので「海洋構造物による



《私の声を市長に送る旬間》から

明るい留萌づくりに積極的な市民の声が

▽こととして10回目を迎えた《私の声を市長に送る旬間》は、さる9月10日から20日までの間を設定、129人の市民の方から165件にのぼる意見、要望等が寄せられました。

▽寄せられた意見や要望については、原田市長が一枚ごとに回答、即実施できるものについては既に実施済のもの、また、今少し検討を加えるもの、今後の計画等の中に反映させるもの等に分類し、取組みを進めることになっていきます。では、寄せられた声をまとめた中から掲載してみましよう。

多い生活環境整備の声

こととして10回目を迎えた《私の声を市長に送る旬間》は、さる9月10日から20日までの10日間を設定、129人の方から、165件にのぼる意見、要望等が寄せられました。

この旬間は、明るく豊かな留萌のマチづくりは、より市民の声を聞くこと、いわゆる市民の市政参加の一環に、という目的で、さる

昭和47年に第1回目を設定、ことしは10回目という、いわば節目の回を迎えた訳です。

この10回の旬間設定で、のべ9

88人(男562人 女354人)の方から要望、意見等が寄せられました。これら貴重な意見等は積極的に市政運営の中に反映して参りました。

今回の旬間を分類してみますと129枚のうち、男女別では男性60人、女性55人、無記入14人。年齢別に見ると、投票者のトップは60歳代の方が31人(男19人、

女12人)、続いて50歳代の方29人(男16人、女13人)等で、高齢の方程、関心が高い(左表)ことを示しているようです。

年齢別	男	女	計
10～20歳代	3	1	4
21～30歳代	5	4	9
31～40歳代	9	11	20
41～50歳代	8	14	22
51～60歳代	16	13	29
61～	19	12	31
	60	55	115

次に、職業別では主婦が28人、続いて公務員21人、会社員16人、

技能職8人等が多いようです。

各部別の要望等を見ますと、民生部関係がトップで、塵芥収集、カラスの駆除、街灯料金の補助等56件続いて例年のことですが建設部関係では道路・排水溝の整備、除雪、下水道の完成等が多くを占めました。私的な身の廻りの環境整備を求めるものが多いようであり行政と市民としての相互の役割りを考えていただきたい要望

■寄せられた意見の中から

▽図書館の日曜日開館をしてほしい。(沖見町6 飯田さん)

▽職員等の勤務時間等の調整もあり、検討をさせていただきます。

ただ、事前に電話、ハガキ等をしたければ、日曜日貸出しをするようになっていますので、ご利用願います。

▽留萌に市立高校を建ててほしい。(野本町 小林さん)

▽道立高校は、全部で15間口(普通、工業高校併せて)で655人の生徒の受入体制があります。管内の南部地区(留萌、増毛、小平)の中学卒業者は年間約900人ですが、この数字で市立、私立高校の設置は困難なようです。

このため、留萌高校の間口を増やすよう、関係機関に働きかけていきます。

▽火力発電や企業誘致を積極的に

もありました。

また、教育関係では、市民の運動施設の整備充実、図書館の日曜開館等について11件、さらに産業港湾部では季節的なこともあり灯油の価格安定、観光の充実等8件。また、企業誘致やチバペリダムの完成等、企画関係5件、さらに市立病院に眼科の常時開設、受付カウンターを明確に等、6件が寄せられています。

行うべきだ。(大町3 中黒さん)

▽これまで臨海型工業を中心に誘致運動を進めて参り、留萌新港の整備により工業団地造成、工業用水の確保等を図ることを目標に誘致運動を進めたいと考えます。

また、火災については、市民協議会、市議会等の答申をいただいていますので、取組みをさらに進めたいと考えます。

▽留萌の物価について、他市より高いのでは。(南町4 七戸さん)

▽市では49年から物価モニターを委嘱、55品目の調査を毎月実施しています。全道と対比できるものは28品目中、全道平均より安いものは13品目、高いものは15品目(55年平均)で、総体的には大きく差はないと思います。しかし、商品によって回転率の悪い物については多少高いようです。